

韓国版「お遍路」ツアー

「韓の国三十三観音聖地」巡り

公社など企画「新たな観光資源に」

と同時に、韓国内でも新しい旅のスタイルとして提案したい」と、日韓の文化融合で生まれた企画に期待を寄せている。

同公社などによると、韓国では霊地巡礼の習慣はないが、名刹には観音像がまつられ、多くの参拝客が訪れる。「日本古来の観光の原点」とされる霊地巡礼を韓国でも広げようと、寺院関係者による韓国仏教文化事業団と同公社などで組織した推進委員会が主催した。

三十三カ所は地域性と韓国仏教の伝統的な姿を紹介する観点から選び、「札所認定証」を授与。寺の由来、伝統文化を解説する「専任先達」の資格を新設し、ツアーでは資格取得者が案内役を務める。各寺院では任職の法話や訪問証明となる朱印帳への押印があり、三十三カ所の達成者には何人目かを記した記念牌を贈る計画だ。

三十三カ所には韓国三大名刹とされる通度寺(梁山市)、海印寺(陝川郡)のほか、仏教の国内最大宗派の総本山・曹溪寺(ソウル市)などが含まれる。日本か

らのツアーは旅行代理店を通じて参加者を募集、実施する。



33カ所の1つで、国宝、地方宝物19点の建造物がある通度寺(梁山市)